

平成29年9月期 第2四半期決算説明会

テーマ：インシデントに関するご報告と当期業績について

2017年5月1日

GMOペイメントゲートウェイ株式会社
(東証一部 3769)

第49回

GMO PAYMENT GATEWAY

<http://corp.gmo-pg.com/>

当資料取扱上のご注意

本資料に記載された内容は、2017年5月1日現在において、一般的に認識されている経済・社会等の情勢並びに当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

アジェンダ

1. 不正アクセスによる情報流出について
2. 2017年9月期 第2四半期及び通期業績
3. 事業環境とセグメント別進捗
4. 財務ハイライト
5. 参考資料等

1. 不正アクセスによる情報流出について

1.1 発生事実

3月8日から9日にかけて不正アクセスによる情報流失事故が発生

■ 事実

2017年3月8日から9日にかけて、東京都の都税クレジットカードお支払サイト及び独立行政法人住宅金融支援機構の団体信用生命保険特約料クレジットカード支払いサイトにおいて、アプリケーション・フレームワークの脆弱性を悪用した第三者による不正アクセス及び情報の流出が確認

■ 不正に取得された情報数 (数値は、項目ごとの数値であり、各項目を合算して不正に取得された総数となるものではありません)

・ 「都税クレジットカードお支払サイト」

クレジットカード番号・有効期限：	364,181
メールアドレスも付随しているもの：	362,049

・ 「団体信用生命保険特約料クレジットカード支払いサイト」

クレジットカード番号・有効期限：	40,872
セキュリティコード（※）：	31,124
メールアドレス（※）：	28,552
住所：	39,085
電話番号：	37,380
氏名・生年月日：	36,377

(※) セキュリティコード及びメールアドレスは、「団体信用生命保険特約料クレジットカード支払いサイト」によりクレジットカード払いの申込みを行ったお客様が対象となります。紙面による申込みにはセキュリティコード及びメールアドレスは不要なため、クレジットカード番号の数に比べて少なくなっております。

1.2 再発防止策

3月14日「再発防止委員会」を設置、本日調査報告書を公表

■再発防止委員会の目的

本件事故の事実関係の調査
本件事故の原因調査
再発防止策の提言

■調査期間

2017年3月14日に設置し、同日から2017年4月30日まで
期間中に委員会を8回開催

■再発防止策

※詳細は「不正アクセスによる情報流出に関する調査報告書」第7 再発防止策をご参照

技術的な防止策（短期的対策及び中長期的対策）
情報セキュリティマネジメントに関する防止策
リスク全般のガバナンス体制及びコーポレートカルチャーに関する防止策
再発防止策の実施

2017年4月14日までに、以下の防止策を実施

- ・技術的な防止策における短期的対策
- ・セキュリティインシデント対応
- ・システム開発に関する短期的対策

都税支払サイト再開のため、再発防止の観点からPCF社によるPCI DSSアセスメントを実施、
4月14日時点でPCI DSS要件を満たしたことが確認された（4月24日より都税支払サイトが再開）

1.3 業績への影響

現時点における合理的な見積もりにより2Q決算を開示

■特別損失：▲270百万円

- ・情報セキュリティ対策費

お客様へのお詫び状の送付及びお問い合わせ対応費用（コールセンター等）並びに不正アクセス及び情報流出に対する調査等

（情報セキュリティ対策費用18,409千円、情報セキュリティ対策引当金繰入額251,637千円）

■特別利益：+160百万円

- ・当該情報流出に係る保険金

■差し引き：▲110百万円

※クレジットカードの再発行及びクレジットカードの不正利用に関する費用等については、各クレジットカード発行会社が上記の2つのサイトの運営主体である法人に当該費用を請求し、運営主体の法人から当社に請求が来た時点において、当社において発生を認識することとなります。そのため、当該費用については発生の可能性が相当程度高いものの、当社においてその発生の状況を直接把握することができません。各クレジットカード会社とは緊密に連携しておりますが、当第2四半期連結累計期間末においては当該費用の発生を認識しておらず、今後の発生の見込みについても合理的に見積もることができない状況であるため、当第2四半期連結累計期間においてはクレジットカード再発行及びクレジットカード不正利用に関する費用を計上しておりません。当該費用については一定の金額の範囲内において保険の適用対象になる見込みであるため、発生したとしても損益に与える影響は軽微であると考えております。

2. 2017年9月期 第2四半期及び通期業績

2.1 業績サマリー

売上高は計画比+19.1%、純利益は法人税等の負担率上昇により同-23.1%

(百万円)	前1H	17年9月期1H				前2Q	17年9月期2Q	
	実績	計画	実績	計画比%	増減率%	実績	実績	増減率%
売上高	5,730	8,389	9,992	+19.1	+74.4	2,997	5,645	+88.3
売上総利益	4,432		7,069		+59.5	2,314	3,832	+65.5
営業利益	1,879	2,499	2,536	+1.5	+35.0	1,008	1,335	+32.4
経常利益	1,918	2,351	2,370	+0.8	+23.5	994	1,260	+26.8
純利益	1,151	1,409	1,084	-23.1	-5.9	554	487	-12.2

	稼働店舗数 (期末)	決済処理金額 (2Q概算)	決済処理件数 (2Q 概算)
KPI	85,123店	約6,200億円	約2億6,100万件

■ 2017年9月期 第2四半期のポイント

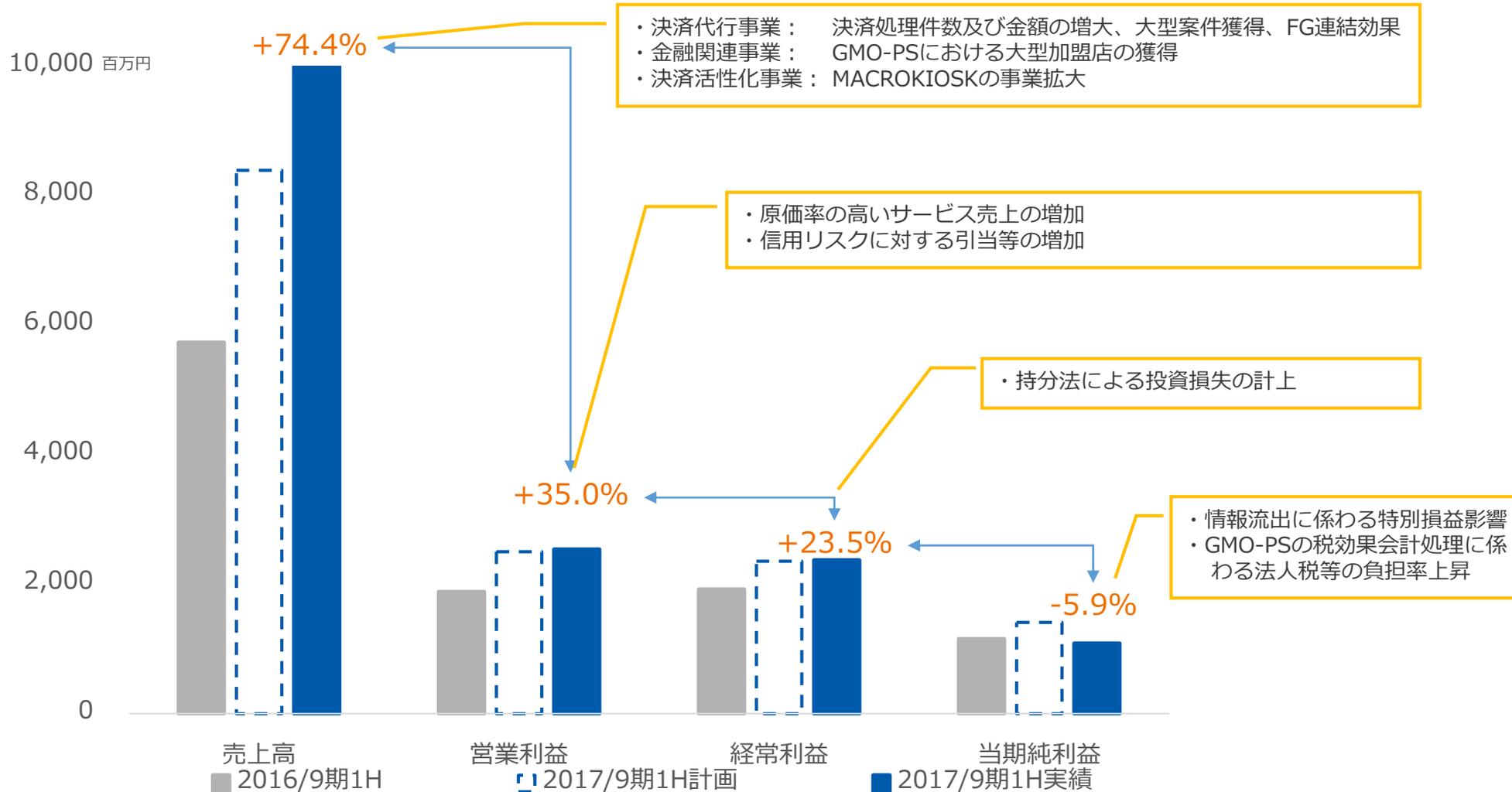
- 1H売上高： 前年同期比+74.4%、 計画比+19.1% ……2.3参照
 決済代行業業： 決済処理件数及び決済処理金額の増大や大型案件の獲得に伴う決済代行サービスの拡大、FG連結効果
 金融関連事業： GMO-PSによる大型加盟店の獲得
 決済活性化事業： MACROKIOSKの事業拡大
- 純利益： 前年同期比 -5.9%、 計画比-23.1% ……2.4参照
 情報流出事案に係わる特別損益影響

GMO-PSの一時差異に係る繰延税金資産を計上しないことに伴う法人税等の負担率上昇

FG：GMOフィナンシャルゲート/GCS

2.2 業績サマリー

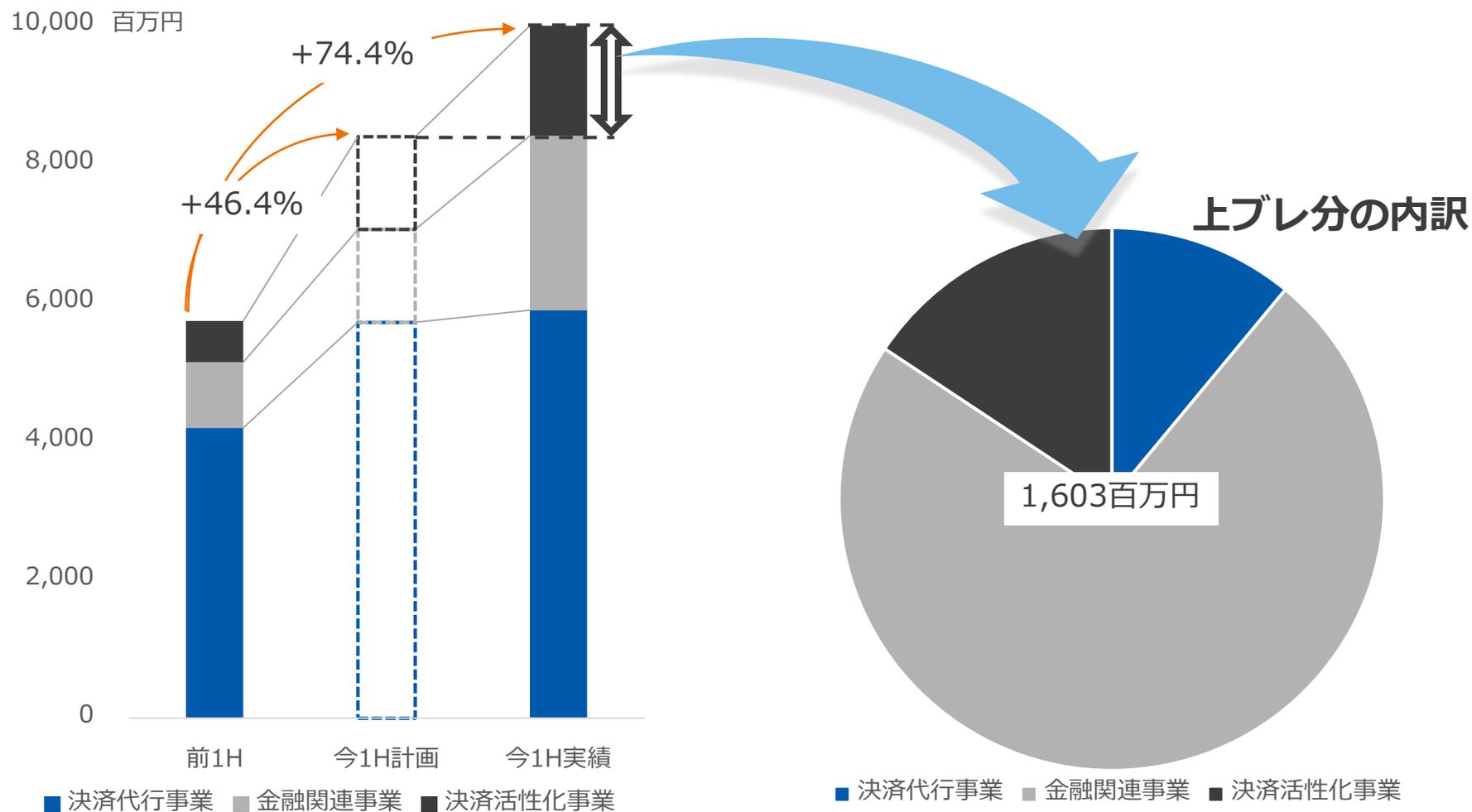
売上高は前年同期比74.4%増、純利益は法人税等の影響により同-5.9%



FG : GMOフィナンシャルゲート/GCS

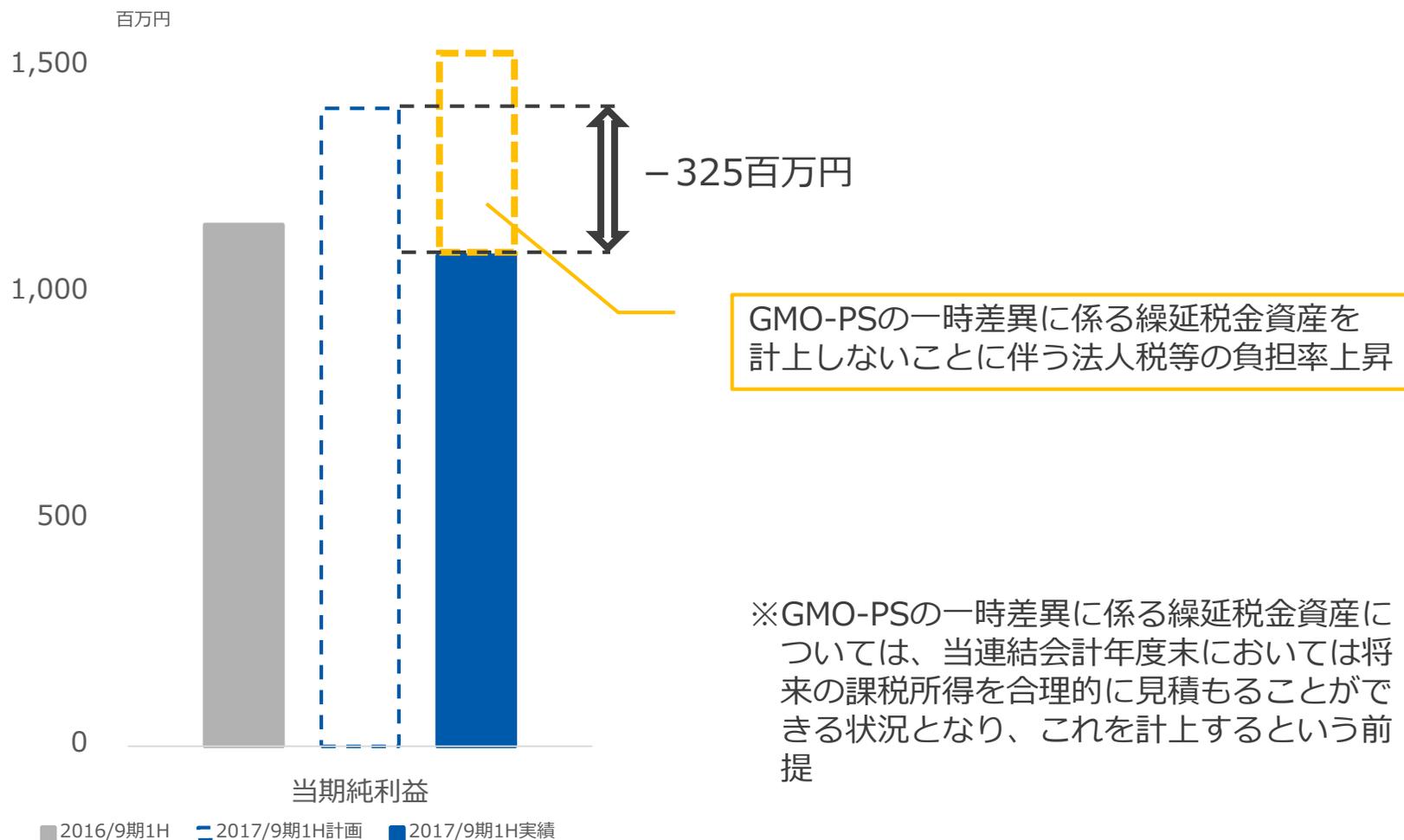
2.3 業績サマリー 売上高

連結売上高は当初予算に対し1,603百万円の上ブレ



2.4 業績サマリー 純利益

税効果会計適用見送りに伴う法人税等の負担率上昇

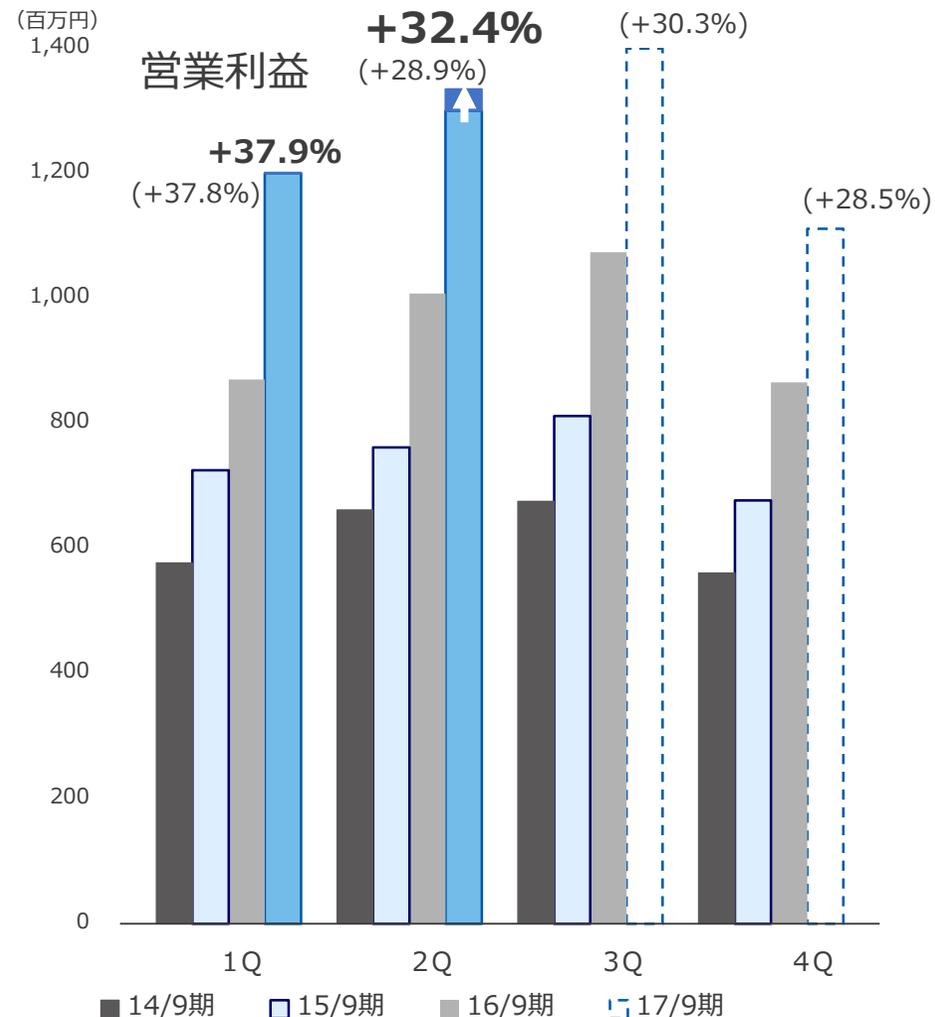
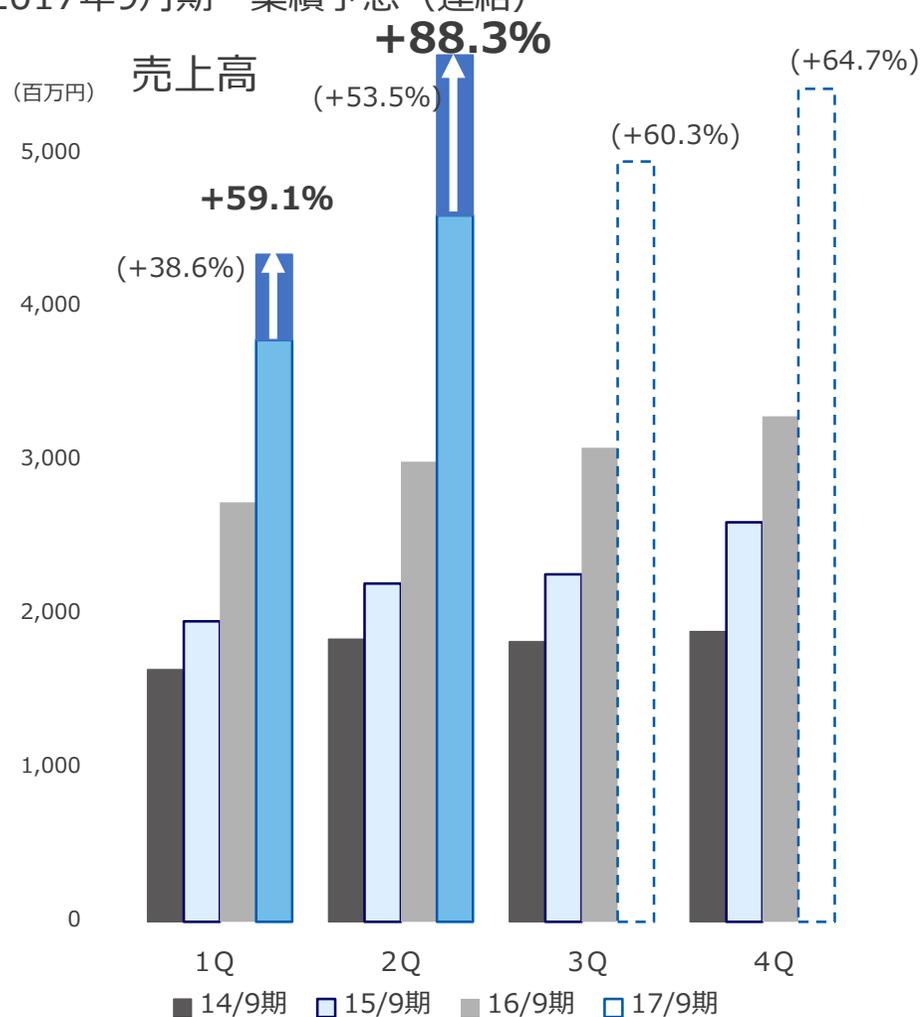


2.5 四半期業績推移及び計画値

売上高は計画比大幅増も、営業利益は計画通り

■ 2017年9月期 業績予想（連結）

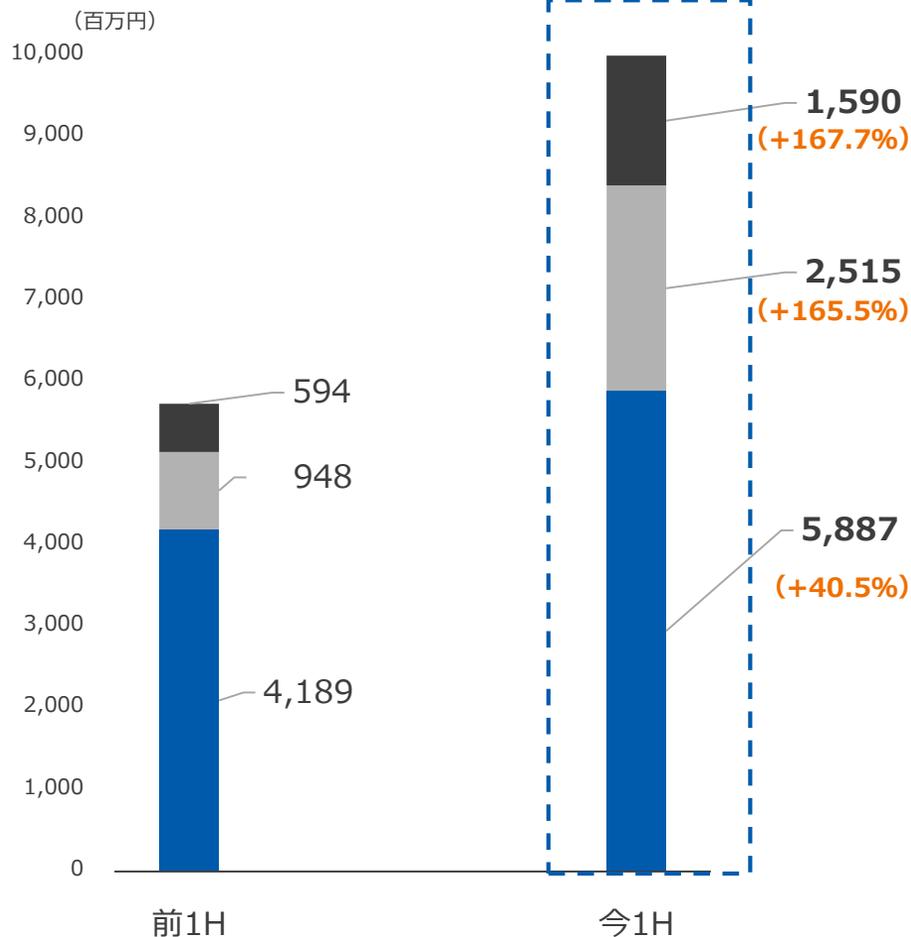
%は対前年同期比増減率
() : 期初計画増減率



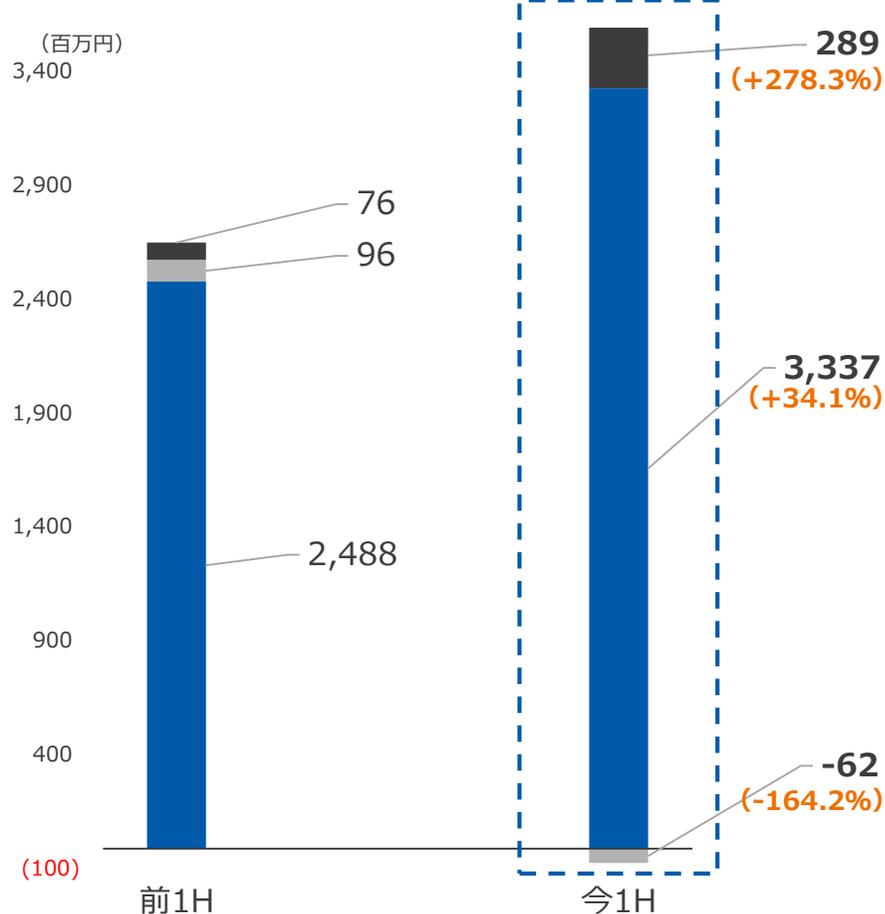
2.6 セグメント別売上高・営業利益

全セグメントで25%以上の営業増益を達成

■ セグメント別売上高

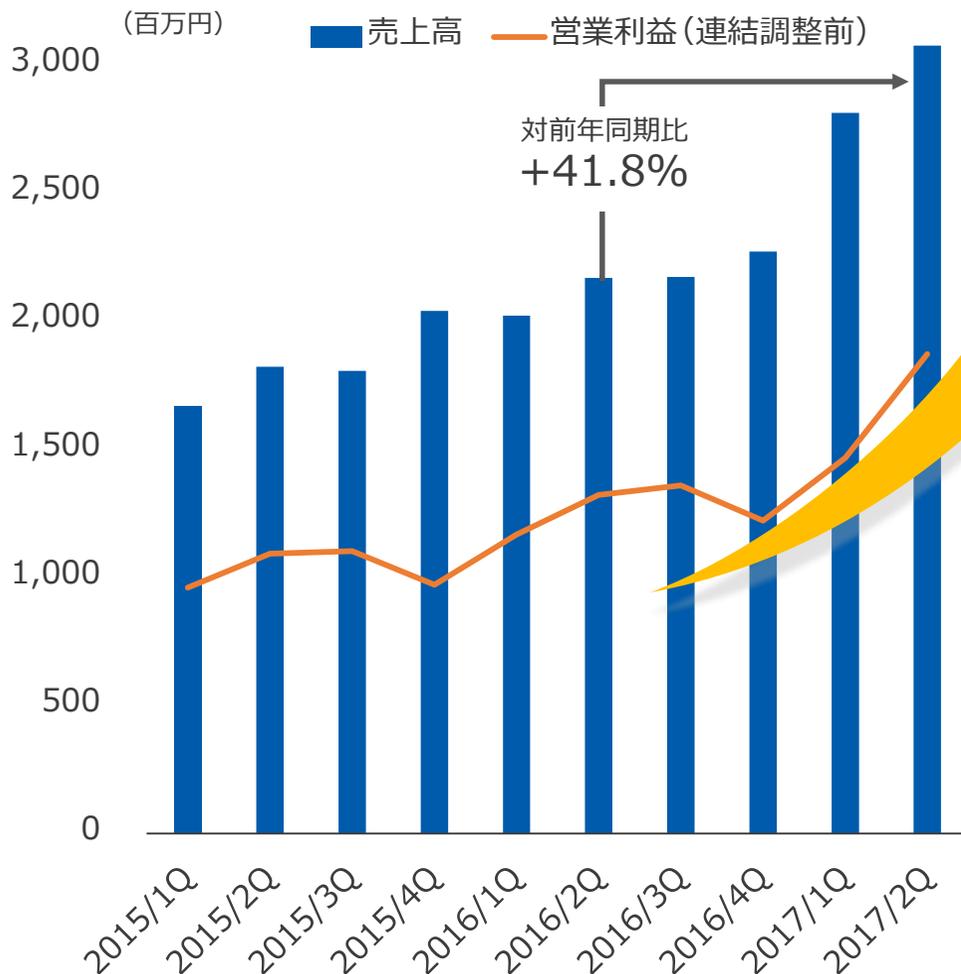


■ セグメント別営業利益 (連結調整前)



2.7 決済代行事業

決済処理件数・金額の増大と大型案件獲得により利益成長が加速



■ 事業環境

オンライン：EC市場の拡大

対面市場：キャッシュレス化加速

■ 成長施策

オンライン

還流モデルの強化

EC以外のオンライン決済領域の拡大

多様な決済手段の追加

金融機関向けビジネスの拡大

BtoB市場の開拓

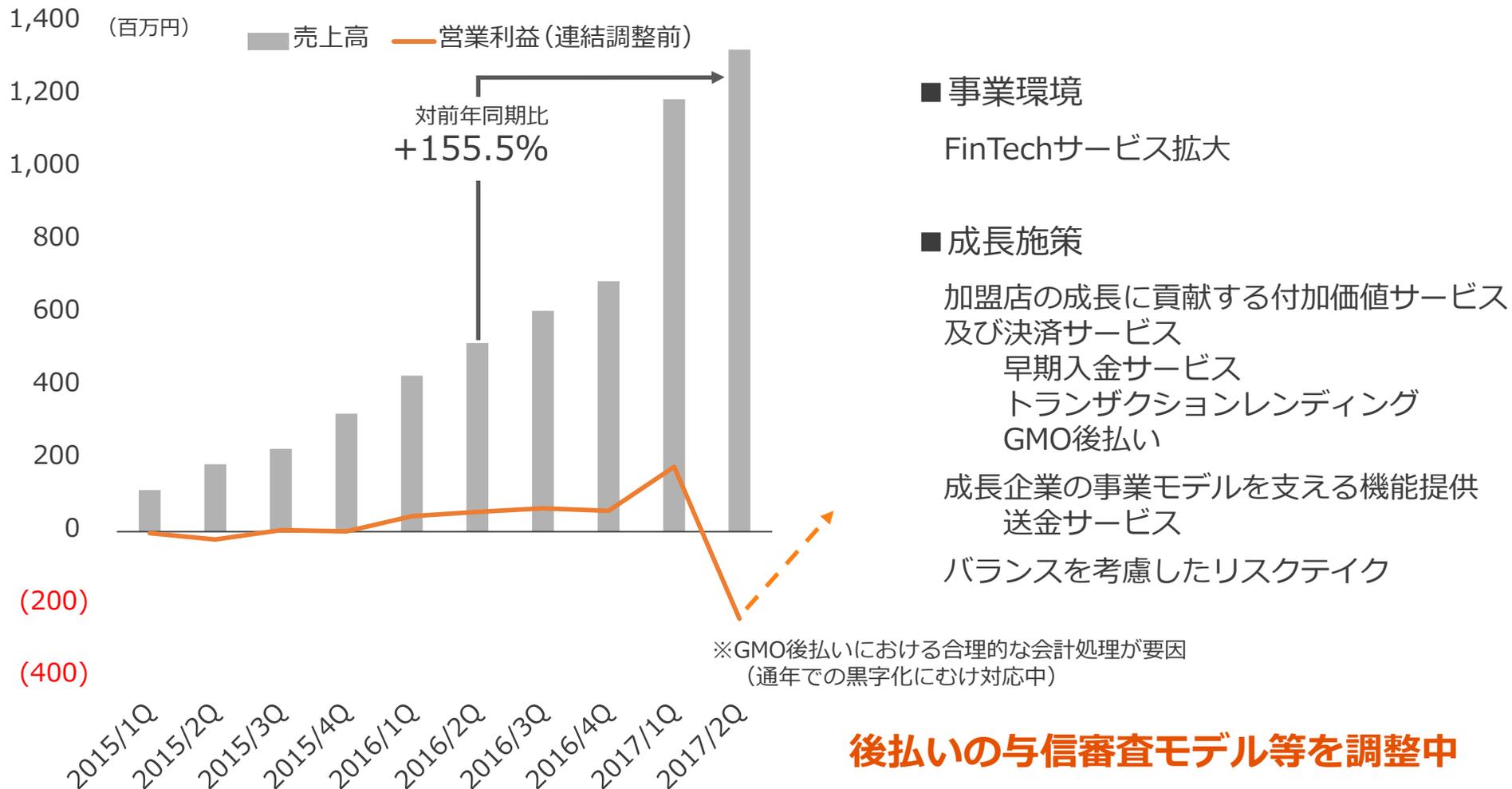
対面市場

成長領域 (スマホ/IoT/インバウンド)

高収益コア事業は持続的成長トレンドに

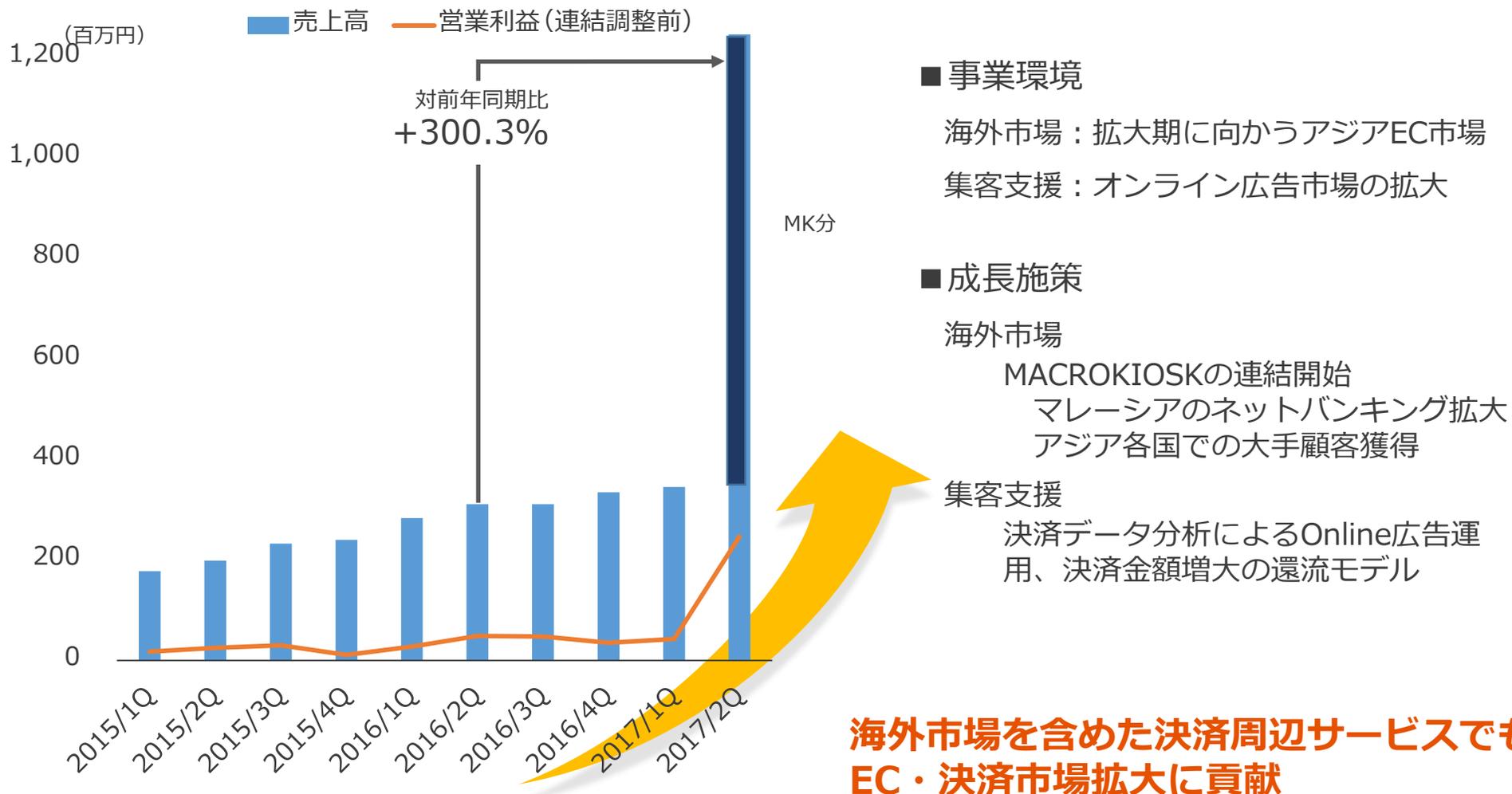
2.8 金融関連事業

2Qは一時的に営業損失となるも、年度決算での黒字化に向け対応中



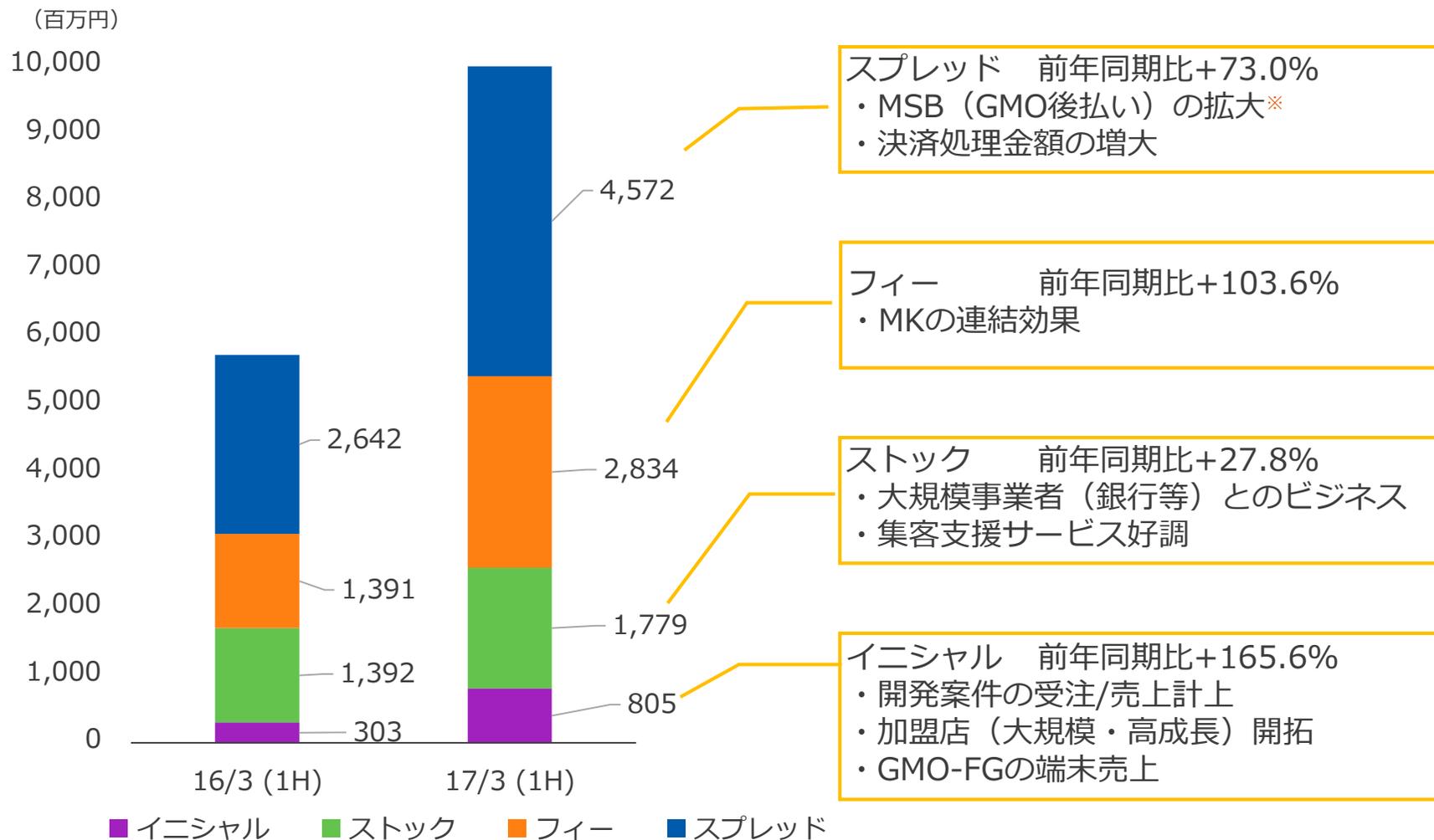
2.9 決済活性化事業（新セグメント）

アジア事業のMKのPL連結開始、新セグメントにて開示



2.10 ビジネスモデル別売上高

イニシャル+165.6%、フィー+103.6%、スプレッド+73%



※これまでフィーとしていた「GMO後払い」売上高を、当2Qよりフィーとスプレッドに分割し集計しております。

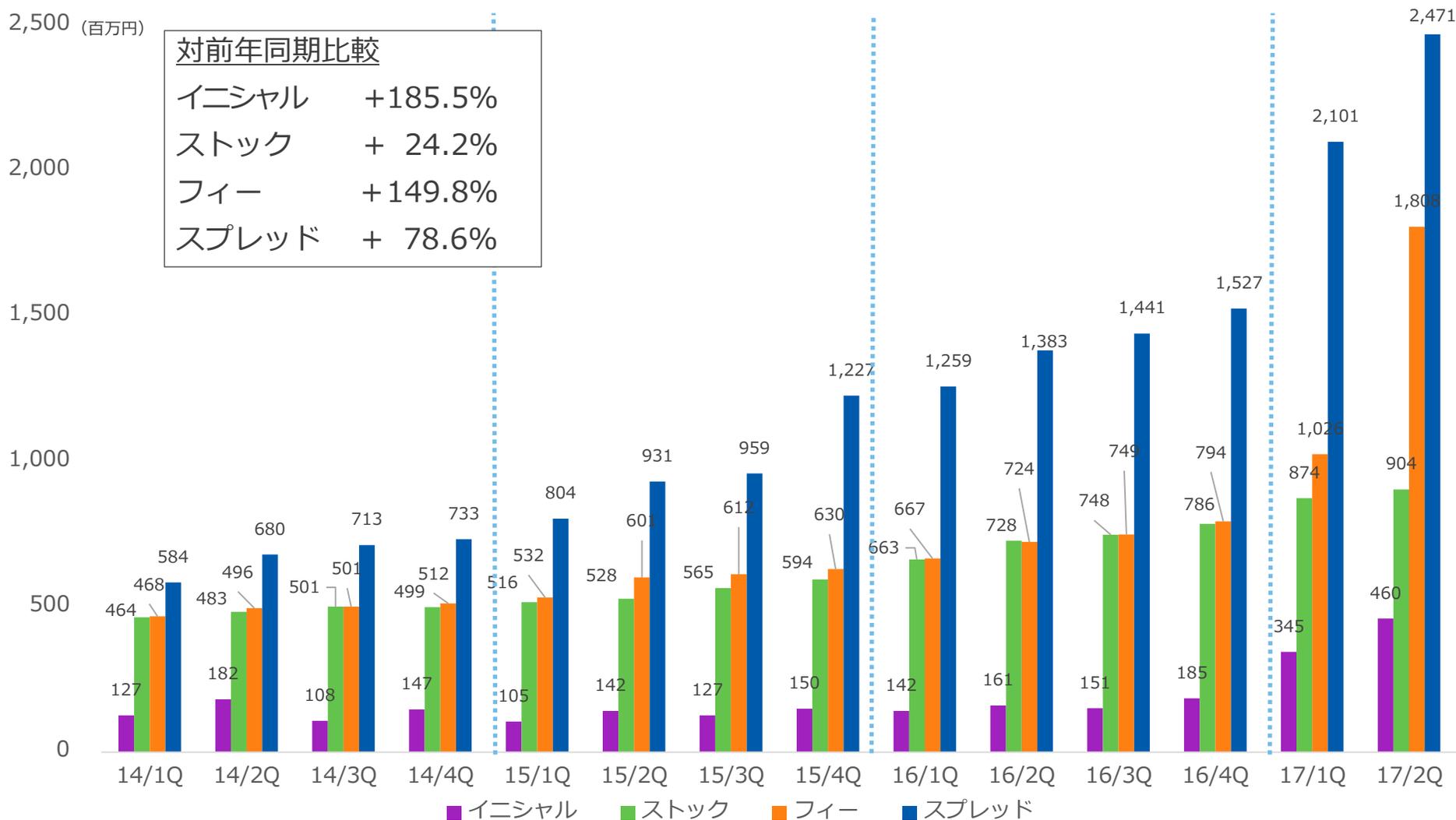
2.11 ビジネスモデル別売上（四半期推移）

全てにおいて大幅増収

2,500 (百万円)

対前年同期比較

イニシャル	+185.5%
ストック	+ 24.2%
フィー	+149.8%
スプレッド	+ 78.6%



※これまでフィーとしていた「GMO後払い」売上高を、当2Qよりフィーとスプレッドに分割し集計しております。

2.12 通期業績予想

1 H決算を踏まえ通期業績予想を修正

■ 2017年9月期

(単位：百万円、%は対前年同期比)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	EBITDA
通 期	20,370(68.2%)	5,013 (31.2%)	4,673 (23.6%)	2,762 (-5.1%)	5,811 (38.7%)
(修正前)	18,767(54.9%)	据え置き	据え置き	据え置き	据え置き
配当予想	37円 (+10円)				

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

■ ポイント

- 売上高
 - ・ 1H上ブレ分を通期業績予想に反映（3-4Q予想は据え置き）
 - ・ MACROKIOSKの損益は第2四半期会計期間より9ヶ月分（2016/10/1～2017/6/30）を取り込む
 - ・ 昨年11/1に開始した後払いの新サービス分は予想に含まず
- 販管費
 - ・ グループ会社増に伴うのれん償却予定（計約230百万円/年）
- 営業外費用
 - ・ のれん償却予定（持分法適用会社分、約160百万円/年）
- GMO-PSの一時差異に係る繰延税金資産については年度末に計上する前提

3. 事業環境とセグメント別進捗

3.1 業界トピックス

最近の 이슈に関する当社グループのポジション

■ 2016年の国内BtoC-EC市場15.1兆円（前年比+9.9%）

EC化率：5.43%（同+0.68p）

- ・還元モデルの強化により市場以上の成長を実現へ

■ 所有から利用へ「サブスクリプションモデル」の拡大と課金支援

- ・米Zuoraの決済パートナー（日本初）として事業機会を追求
- ・新たなサービスに係わる先端企業の成長をサポート

■ EC業界への影響度合い

「ヤマト、一部通販と契約打ち切り」「大手ECモールの格安販売」「不正アクセス」

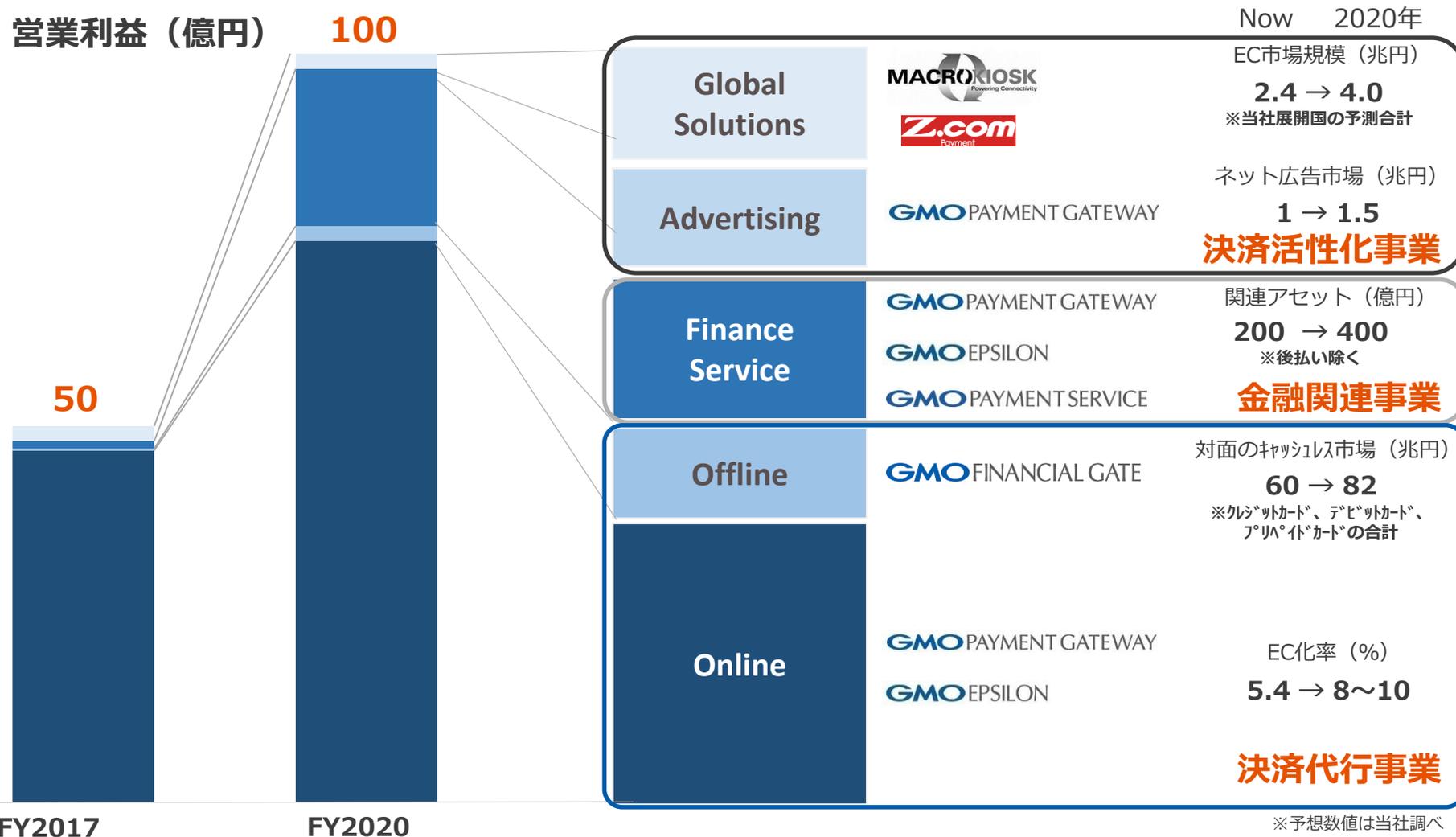
- ・EC市場における一時的な変動の影響を受けない安定収益の拡大
- ・BtoB市場、金融機関向けサービス、継続課金、サービスコマースのほか、新たに生まれる市場/サービスを開拓

■ 仮想通貨の決済利用拡大

- ・業界最速でビットコイン決済を提供

3.2 中期利益目標

2020年目標は現サービス&プロダクトの成長のみで達成可能



3.3 決済代行事業：対面決済

小売事業会社と共に新たな決済市場開拓へチャレンジ

コンビニ100円コーヒーの浸透



飽和状態・立地条件が左右



究極の顧客接点



決済×IoT



挽き豆Coffee自販機



コンビニ商品自販機



NAYAX
(開発中)

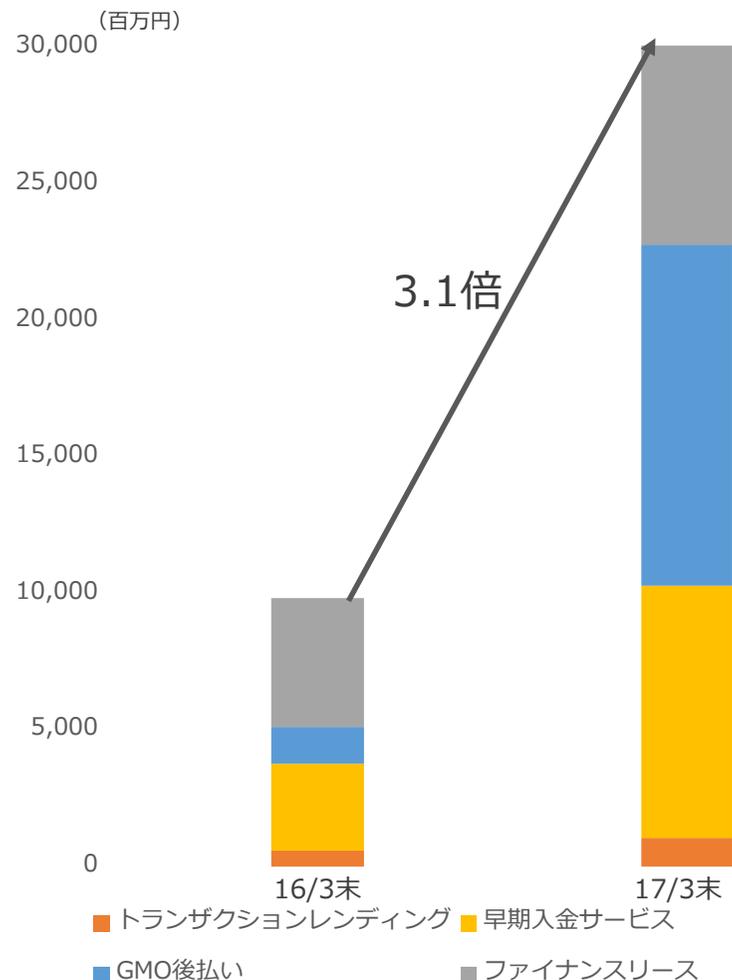


- 社員証
- POINT
- 電子マネー
- クレジット
- プリペイド

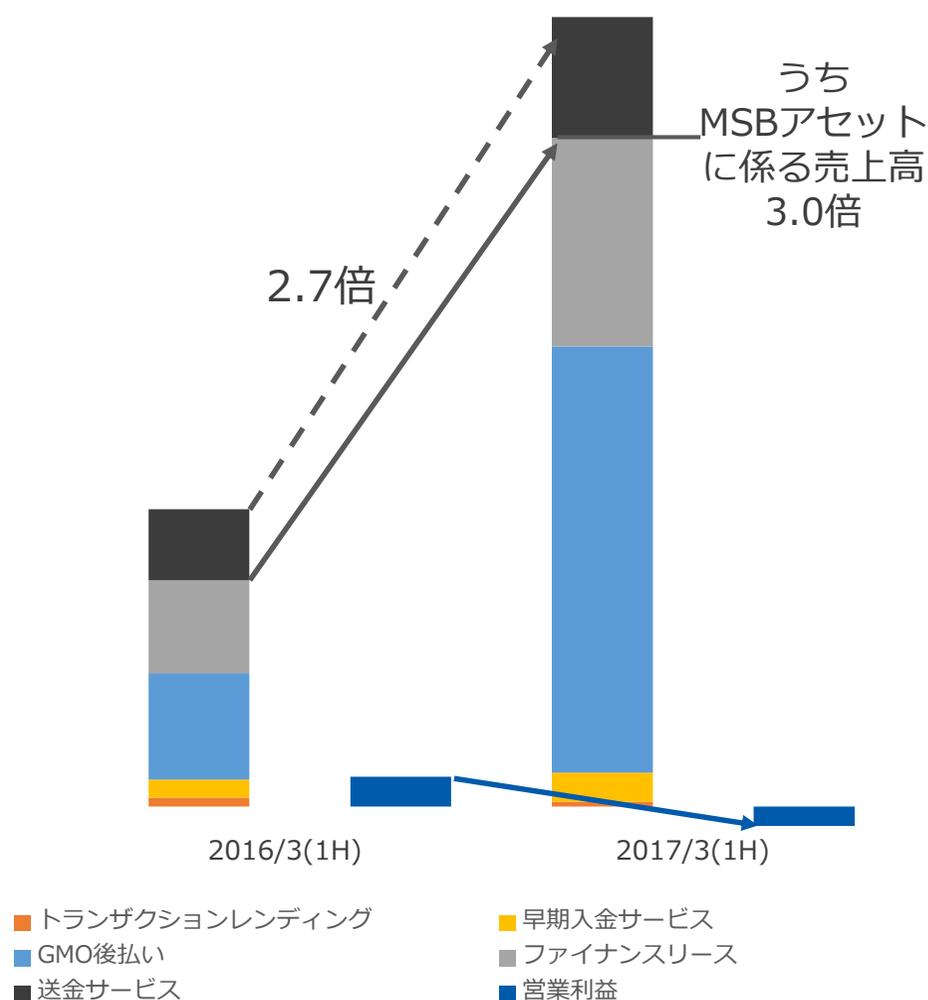
3.4 金融関連事業：MSB関連アセットとセグメント業績

MSB関連アセットの増加にあわせ売上高も3倍に

MSB関連アセット (BS)



MSB関連売上高・営業利益 (PL)

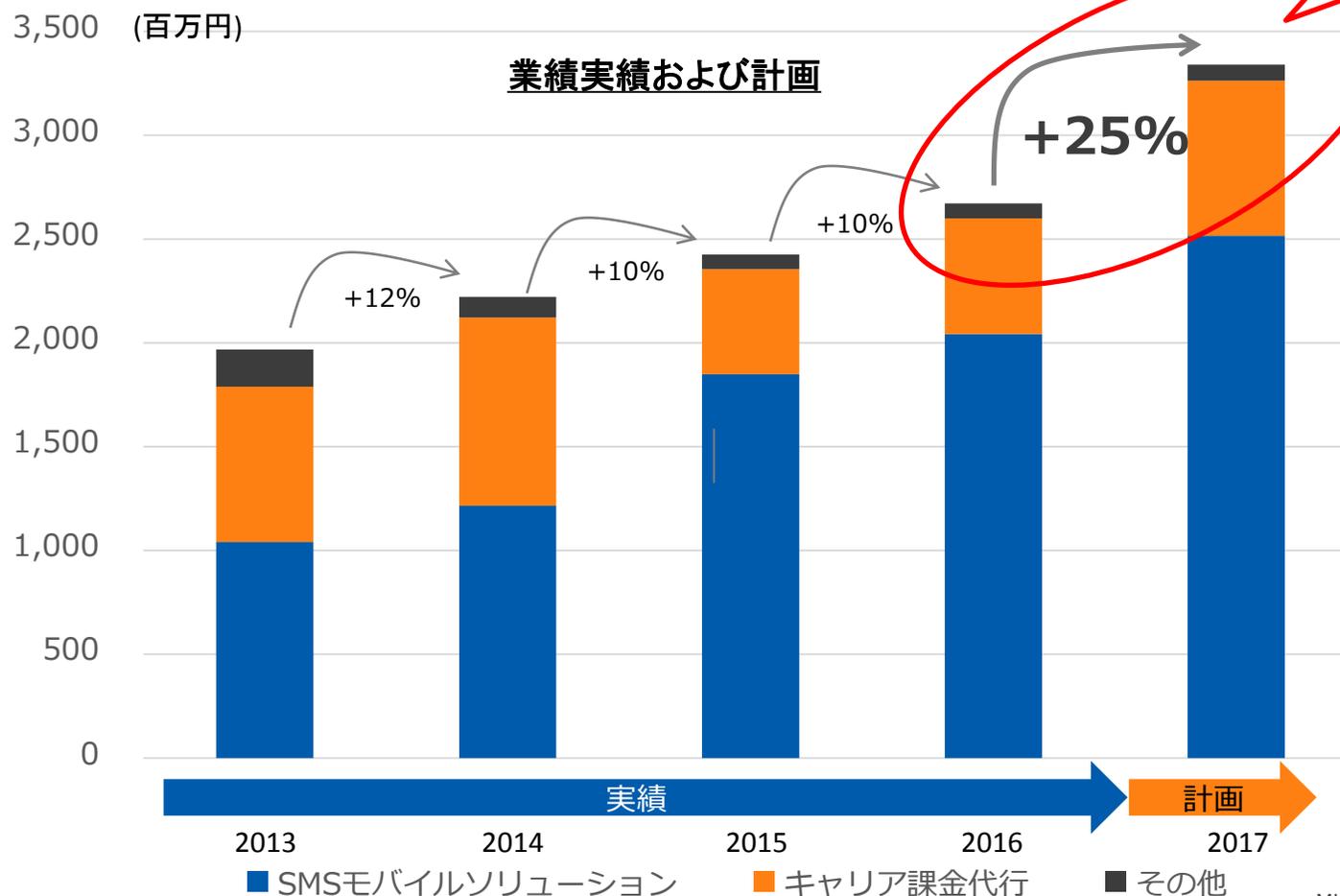


3.5.1 アジア事業（決済活性化事業：MK）

2017年、GMOPGグループジョイン効果により成長加速が顕在化

平均的な成長率が10%台から20%以上に加速

MKの1Qは予算比
上ブレでスタート



3.5.2 アジア事業（決済活性化事業：MK）

当社グループジョイン後の予算を上回る好調の要因

■市場環境：急成長が継続中

「2016年はオンライン取引が41%成長中、
モバイルは72%」 大手銀行による発表

“In 2016, the number of transactions carried out via mobile devices grew by 72%, while transactions via all online channels (including desktops and personal computers) rose by 41%, demonstrating that users are increasingly comfortable with digital platforms,” he said in a statement on Monday.

<http://www.thestar.com.my/business/business-news/2017/04/03/maybank-expects-mobile-platform-transactions-to-rise-to-rm25bil/#Fe5Qavbx75Dy7mEi.99>

■アジア各国で受注が好調、トランザクションが予算超過中

大手保険会社	(タイ)
大手銀行	(フィリピン)
大手交通	(インドネシア)
大手化粧品小売	(インドネシア)

■地域別



3.5.3 アジア事業（決済代行事業）

大手加盟店への導入が進み、決済処理金額も順調に推移

■ 現地日系法人加盟店事例

大手加盟店へのZ.com Payment導入がすすむ

大手コスメ加盟店：メディプラス（台湾）



大手健康食品加盟店（台湾）

■ 中華圏・ASEAN展開状況



アジアの決済関連ベンチャーを
投資対象とした日本初の
Fintechファンド（総額20億円）

4. 財務ハイライト

4.1 連結貸借対照表

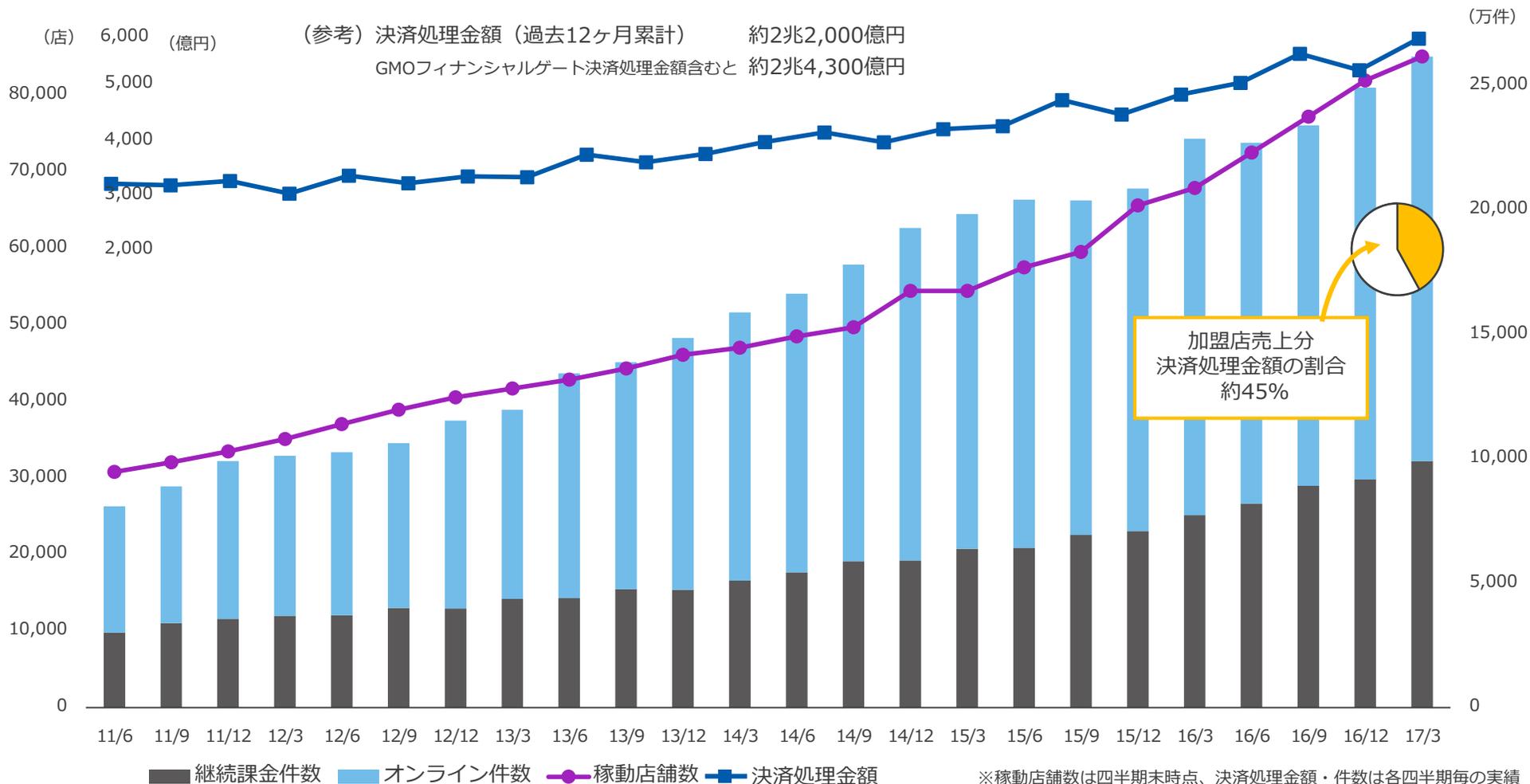
MSB関連及びグループ企業拡大に伴うアセットの増加

(百万円)	17年9月期2Q	16年9月期2Q	増減	(百万円)	17年9月期2Q	16年9月期2Q	増減
流動資産	64,067	43,788	20,279	流動負債	54,283	32,355	21,928
現金及び預金	29,004	31,171	△2,167	短期借入金	4,030	0	4,030
リース債権	7,311	4,713	2,598	預り金	33,048	26,923	6,125
前渡金	9,240	3,191	6,049	ファイナンス・リース関連			
未収入金	12,494	1,354	11,139	早期入金サービス拡大 (BS残高は連結処理(相殺)後)			
貸倒引当金	△1,324	△258	△1,066	GMO後払い増加			
その他の流動資産	7,341	3,614	3,762	未払金	11,234	2,574	8,659
固定資産	10,222	5,414	4,807	その他の流動負債	5,970	2,857	3,112
有形固定資産	362	204	158	TL残高(短期貸付金)は「その他流動資産」に含まれております。			
無形固定資産	3,968	1,153	2,814	固定負債	304	217	86
のれん	2,286	26	2,260	グループ企業拡大に伴う増加			
ソフトウェア	1,310	810	499	株主資本	18,364	16,548	1,816
投資その他の資産	5,891	4,056	1,834	資本金	4,712	4,712	0
投資有価証券	2,415	2,762	△347	その他の包括利益	359	80	279
関係会社株式	2,611	283	2,327	累計額			
資産合計	74,290	49,203	25,086	関係会社有価証券の増加			
				純資産合計	19,702	16,630	3,071
				負債・純資産合計	74,290	49,203	25,086

4.2 主要KPI推移（四半期推移）

年間決済処理金額は2兆円を突破

稼働店舗数 85,123店、決済処理金額 約6,200億円、決済処理件数 約2億6,100万件



5. 参考資料等

5.1 連結業績サマリー

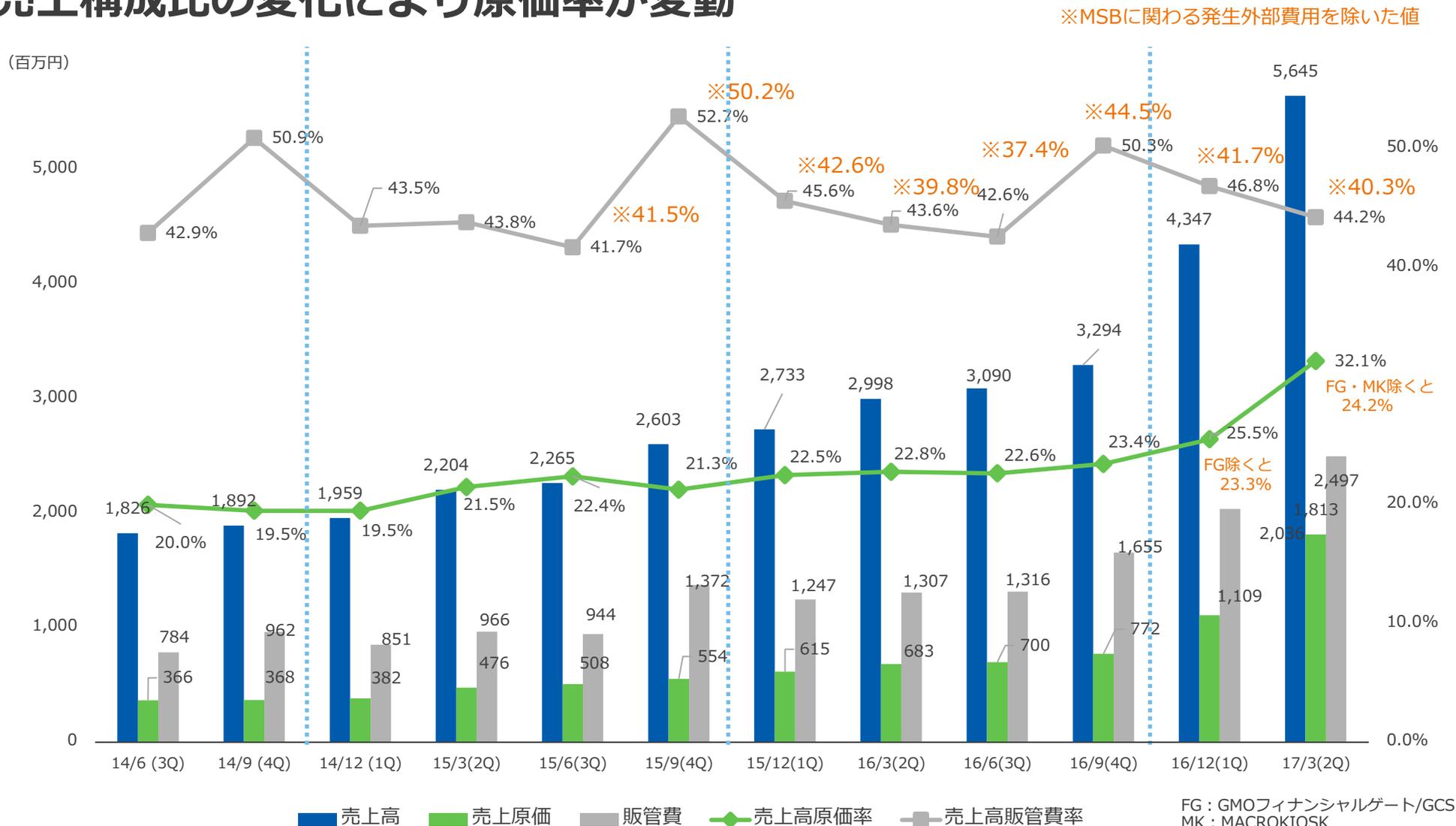
前年同期比で営業利益35%増、EBITDA41.7%増

(百万円)	17年9月期1H		前期比		16年9月期1H	
	実績	構成比 (%)	増減額	前期比 (%)	実績	構成比 (%)
売上高	9,992	100.0%	4,261	+74.4%	5,730	100%
売上原価	2,922	29.2%	1,624	+125.2%	1,297	22.6%
売上総利益	7,069	70.8%	2,636	+59.5%	4,432	77.4%
販売費及び 一般管理費	4,532	45.4%	1,979	+77.5%	2,553	44.6%
営業利益	2,536	25.4%	657	+35.0%	1,879	32.8%
経常利益	2,370	23.7%	451	+23.5%	1,918	33.5%
純利益	1,084	10.9%	△67	-5.9%	1,151	20.1%
一株当たり 純利益 (円)	29.19	-	-	-	31.01	-
EBITDA	2,903	-	855	41.7%	2,048	-

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

5.2 売上高原価率・販管費率（四半期推移）

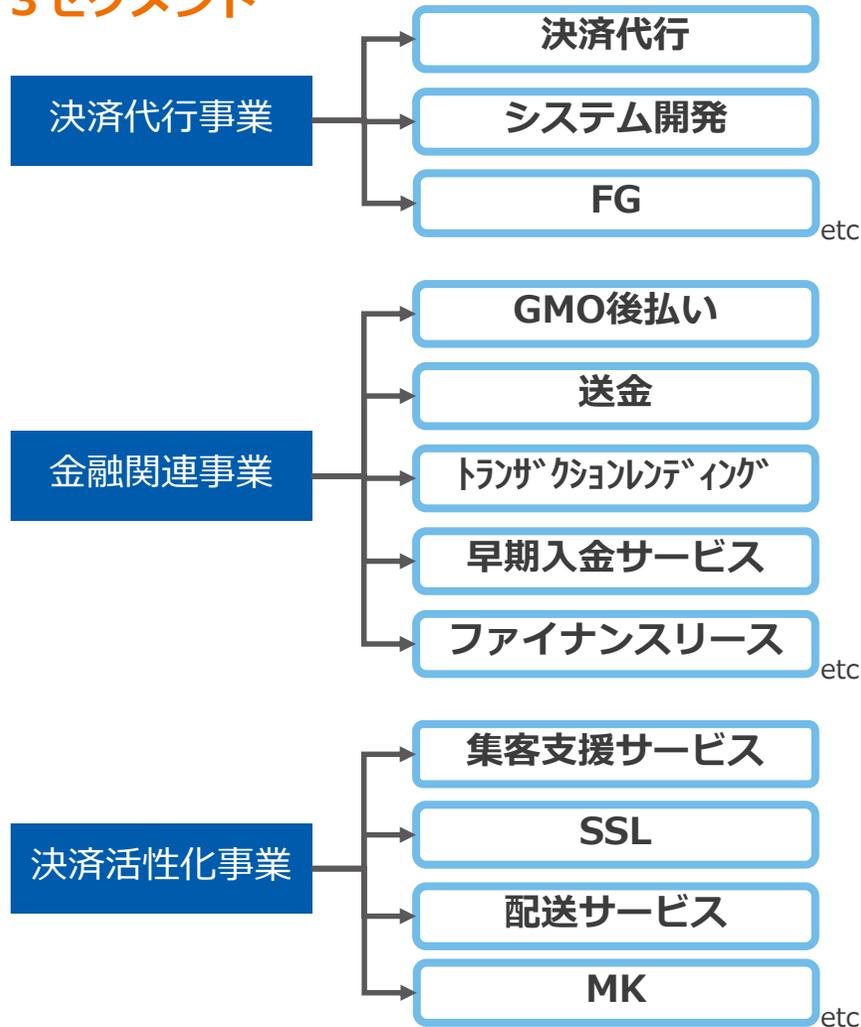
売上構成比の変化により原価率が変動



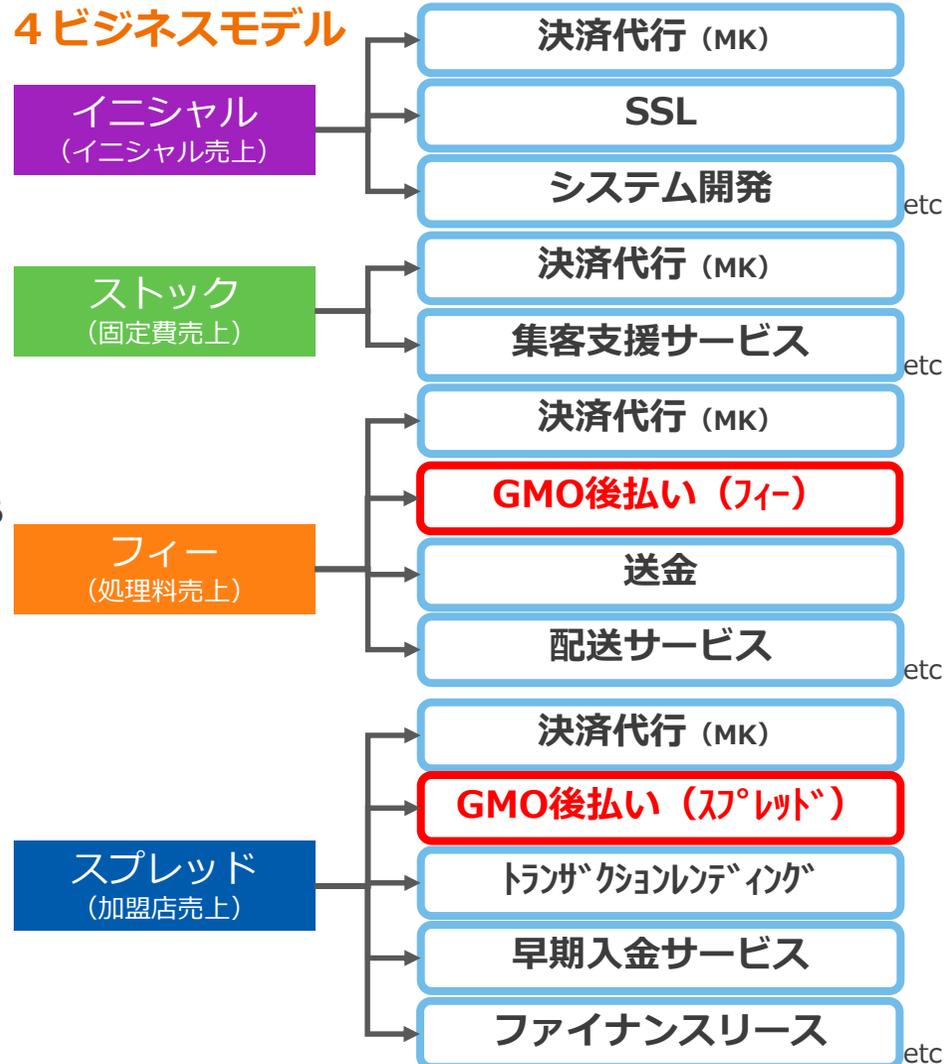
5.3 報告セグメントと、ビジネスモデル別の変更

GMO後払いをフィーとスプレッドに分割、MKを追加

3セグメント



4ビジネスモデル



赤字：当2Qからの変更点

MSB

ありがとうございました

GMO PAYMENT GATEWAY

GMOペイメントゲートウェイ株式会社
(東証一部 3769)

IRサイトURL <http://corp.gmo-pg.com/>

お問合せ・個別取材のお申込みは、企業価値創造戦略 統括本部 IR室までご連絡ください。

IR室 TEL:03-3464-0182